



本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導法の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価方法の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
◇各教科の学習の中で、自分の考えを互いに交流させることによって、さらに考えを広げ深める力を継続的に育成する。 ◇習熟に応じた指導や補充的な学習・発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の一層の充実を図る。 ◇地域の特性を生かした取り組みや、SDGsを意識した体験活動を充実させる。	◇年間指導計画・評価規準を見直し、授業における指導と評価の一体化を図る。 ◇2年生以上では、習熟度別算数指導を実施し、東京ベースック・ドリルを活用するなど、個に応じた指導を実践する。 ◇モジュール授業を活用して、国語における基礎的な学習内容の確実な定着を図る。 ◇学力調査の検証を全体で共有し、授業改善プランに基づく指導内容の充実を図る。	◇研究主題「人間関係を築く力を高める」を基に、自分の思いや考えを積極的に発信し、相手の思いや考えを認め、受容できる力の育成を目指す。 ◇「特別支援分科会」「人権・道徳分科会」「話し合い分科会」の3つの分科会に分かれ、それぞれの視点から主題に向かって、研究を推進する。 ◇教職員による特別支援教育の研修やICT研修、特別活動の研修を定期的に行い、授業力の向上を図る。	◇指導と評価の一体化により、PDCAサイクルの充実を図り、授業改善、学習改善につなげる。 ◇各教科では、授業ごとに評価すべき観点を整理し、評価計画に基づき、適切な評価をする。 ◇児童の学習意欲の向上を図るために、自己評価や相互評価を積極的に取り入れる。	◇教育活動の様子や児童の変容を保護者や学校だより、ホームページなどを通して情報発信する。 ◇地域環境の特徴を踏まえ、公共施設や地域人材を活用した授業づくりの充実を図る。 ◇保護者、地域、学校評議員による外部評価を実施し、教育課程編成へ生かす。 ◇道徳授業地区公開講座も含め、学校公開日を年複数回設定し、保護者や地域に公開する。	◇校区別協議会において、「目指す15歳の姿」を明らかにした上で、小学校と中学校の交流と相互理解の充実を図る。 ◇「交流」「学力向上」「心の教育・不登校対策」「体育・健康教育」の4つの部会で連携を深める。 ◇授業体験や部活動見学、児童・生徒交流などを実施し、豊かな心の育成と中学校へのスムーズな接続を目指す。

